

■ 目標値未達成の要因について

[ 1 ]

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
新規他機関連携件数	件	85	62	▲23

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）				要因分析を踏まえた今後の対応	
①	生活困難者支援等機関からの求職相談が減少	<p>就労困難層からの新規相談の減少と総合支援の新規・継続支援の減少はほぼ同一水準となった。一方、新規他機関連携件数は前年比<b>29.4%</b>減と減少幅が大きくなった。コロナ禍の厳しい雇用環境において、住居費・一時金などの生活困窮者自立支援制度の活用や生活保護等の対応が優先された結果、生活困窮者支援等機関である「白雲寮」で9件、「どん！と西成」で7件など、他機関からの就労相談の依頼が減少した。</p>				<p>あいろん地域で求職活動をする日雇労働者から、若者や女性を含めた就労困難者に対象を広げ、就労支援に取り組んでいく方針を掲げる中で、新規他機関連携件数は欠かすことのできない指数と認識している。</p> <p>・令和4年度は各関係機関との現状と課題を個別に分析し、コロナ禍の影響への対応を含め、時々の課題や状況変化の把握に努め、より良い連携のあり方を構築していく。</p> <p>「日常的な情報交換の一層積極的な取組み」（具体策）</p> <p>従来、行政（西成区役所）が実施する連携会議（月1回程度）があるが、令和4年度、新たに、個別ケースの具体的な検討の場を増やすために、西成労働福祉センターが関係機関に呼びかけてケースモデル会議（月1回程度予定）を実施する。</p> <p>※ケースモデル会議では、①個別事案に対する誘導後のアフターフォローとして就労先からの苦情や問いに対応するための検討、②生活面からのサポートの近況や調整等について意見交換を行う。</p> <p>▷各連携機関の担当職員の年度変わりや人事異動に合わせて就労困難者の就労と生活を両面からフォローしていくことの共通認識の再確認を行う。</p> <p>▷各関係機関の個別職員の理解を得るためにセンターの事業説明の場を設ける。</p>	
	項目名	生活困難者支援等機関からの求職相談件数	R3当初想定値	65	実績値		
②							
	項目名		R3当初想定値		実績値		差
③							
	項目名		R3当初想定値		実績値		差